

2020年度 東北大学留学生 学生生活調査まとめ



Tohoku University International Student Survey 2020



2020 年度 東北大学留学生学生生活調査 報告書

2021.3

【調査の目的】

東北大学の留学生の生活の様子を知り、留学生に対する研究や教育支援、受け入れ体制や国際交流のあり方の改善に役立てる

【実施組織】

高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター

【対象者】

調査期間中に本学に在籍した留学生で、在籍身分は学部生/大学院生/交換留学生/研究生等。2,103 名 (2020 年 11 月 1 日時点の在籍留学生数)

【調査期間・方法・回収状況】

2020年11月5日~2020年12月18日を調査期間とし、ウェブアンケートを日・英語で実施した。 調査項目は基本情報、経済状況、学習・研究環境、大学生活・支援、心身健康・人間関係、卒業後の進 路で、自由記述は日英どちらでも回答可とした。

回答者数は651名、回収率は31.0%であった。

1. 調査回答者の基本情報

1. 所属学部・研究科・研究所

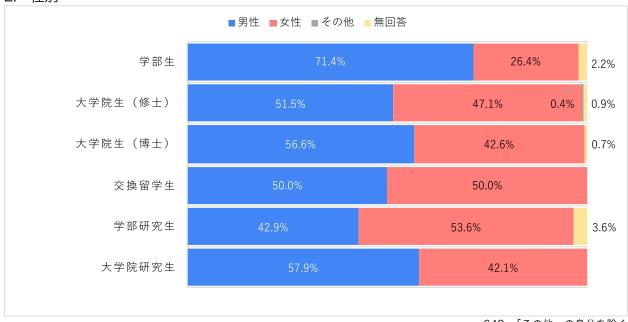
	学部生	大学院生 (修士)	大学院生 (博士)	交換 留学生	学部 研究生	大学院 研究生	その他	全体
文学部・文学研究科	1	10	4	1	8	2	1	27
教育学部・教育学研究科	0	7	1	0	4	1	0	13
法学部・法学研究科	0	3	1	0	0	0	0	4
経済学部・経済学研究科	1	34	16	0	3	1	0	55
理学部・理学研究科	24	27	34	0	2	3	0	90
医学部・医学系研究科	0	5	16	0	1	1	0	23
歯学部・歯学研究科	2	1	22	0	0	0	0	25
薬学部・薬学研究科	1	4	3	0	1	3	0	12
工学部・工学研究科	45	45	61	4	2	0	0	157
農学部・農学研究科	14	14	16	0	2	3	0	49
国際文化研究科	0	29	20	0	3	1	0	53
情報科学研究科	0	20	27	0	0	0	0	47
生命科学研究科	0	8	18	0	1	2	0	29
環境科学研究科	0	12	21	0	0	1	0	34
医工学研究科	0	4	8	0	0	0	0	12
その他	3	4	4	7	1	1	1	9
合計	91	227	272	12	28	19	2	651

[●] 大学院生(修士)、大学院生(博士)の回答率は、30% 前後である。一方学部生の回答率は 44.6%と比較的高く、学部研究生の回答率が 17.2% と低い。

[●] 学部・研究科、研究所によって回答率にばらつきが見られた。理系の学部・研究科、研究所はほぼ 30% 以上であったが、文系は経済学部・経済学研究科の 35.5%を除き、学部・大学院とも 7~25%にとどまった。

[●] 学部生の回答者の多数は英語による学位プログラムが設置されている工学部、理学部、農学部に在籍している。

2. 性別



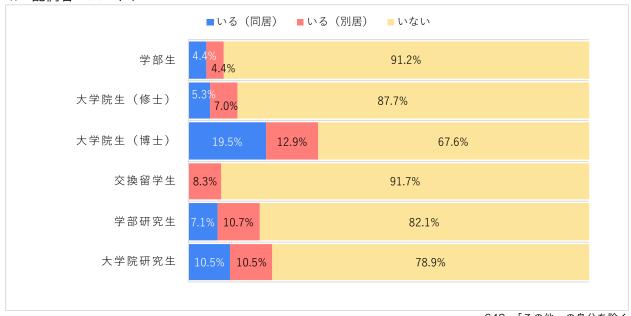
n=649, 「その他」の身分を除く

3. 出身地域

		学部生	大学院生 (修士)	大学院生 (博士)	交換 留学生	学部 研究生	大学院 研究生	その他	全体
出身地域	東アジア	34	156	140	3	23	10	2	368
	東南アジア	47	30	58	1	4	3	0	143
	南アジア	5	6	21	0	0	1	0	33
	北米	0	1	2	0	0	0	0	3
	中南米	0	10	14	0	1	1	0	26
	欧州	2	16	13	7	0	1	0	39
	中東	3	1	6	0	0	1	0	11
	アフリカ	0	6	14	1	0	2	0	23
	オセアニア	0	0	2	0	0	0	0	2
	その他	0	1	2	0	0	0	0	3
									n=651

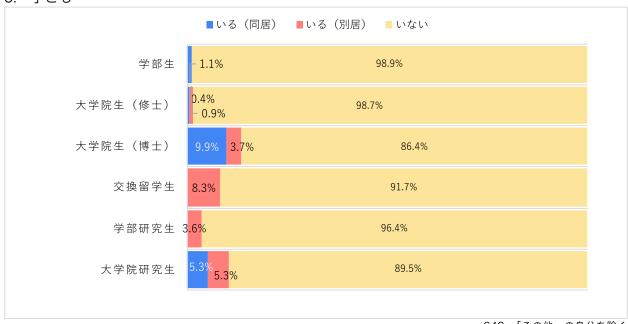
● 本学の留学生の出身地域は、アジアが約90%を占め、次いでヨーロッパ、アフリカ、中南米、中近東、北米、オセアニア(2020年11月1日現在)の順に多い。今回の調査回答者は、本学の留学生の出身地域の構成をほぼ反映する結果となった。

4. 配偶者・パートナー



n=649, 「その他」の身分を除く

5. 子ども



n=649, 「その他」の身分を除く

- 配偶者・パートナーがいる学生は、全体の20.6%で、大学院生(博士)が最も多く32.4%である。
- 子どもがいる留学生の割合は、全体の6.9%で、大学院生(博士)が最も多く13.6%である。

6. 大学生活で最も使用する言語



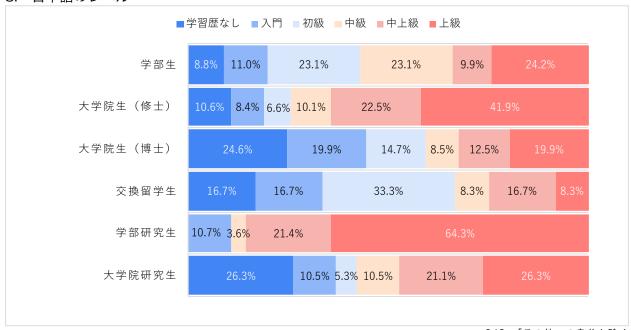
n=649, 「その他」の身分を除く, 複数回答可

7. 日常生活で最も使用する言語



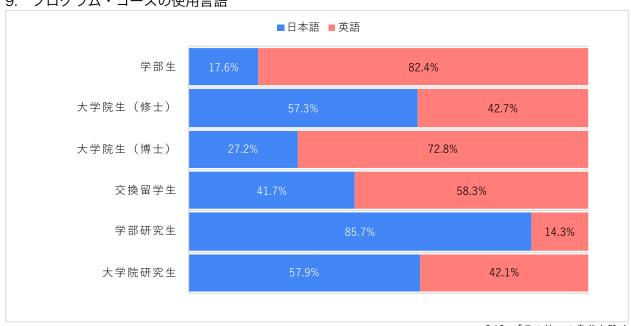
n=649, 「その他」の身分を除く, 複数回答可

8. 日本語のレベル



n=649, 「その他」の身分を除く

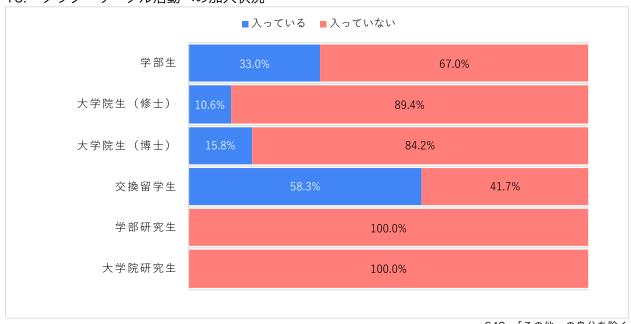
9. プログラム・コースの使用言語



n=649, 「その他」の身分を除く

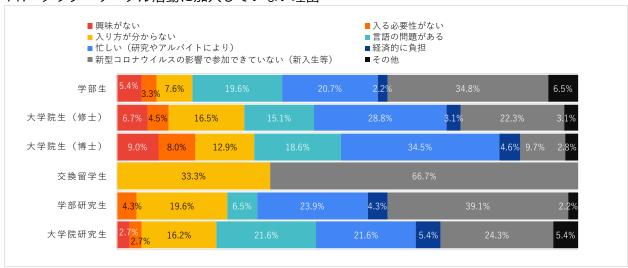
- 大学生活では学部生、大学院生(博士)の 70%以上が英語を使用すると回答し、学部研究生の 65%が日本語を使用すると回答している。日常生活においては、交換留学生と学部生を除き、ほぼ全ての留学生が英語よりも日本語をより多く使用している。
- 自己申告による日本語のレベルは、6 割以上の交換留学生、大学院生(博士)が初級以下と回答し、学部研究生 (64.3%) 大学院生(修士、41.9%)に上級者が多かった。
- 大学院生(修士)・学部研究生は日本語による授業の割合が多く、学部生・大学院生(博士)・交換留学生は英語による授業の割合が多い。

10. クラブ・サークル活動への加入状況



n=649, 「その他」の身分を除く

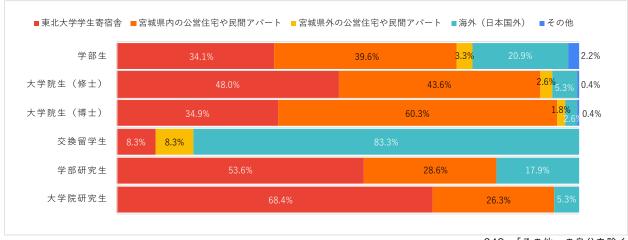
11. クラブ・サークル活動に加入していない理由



n=537, 「その他」の身分を除く, Q9 で課外活動に不参加と答えた人のみ, 複数回答可

- 全体の 84.0%の学生がクラブ・サークルに加入していない。交換留学生は半数以上が加入している。大学院生(修士・博士)の 34.5%が忙しいから加入していないとする一方で、ほぼすべての身分の留学生の約 3 割が、「入り方が分からない」「言語の問題がある」ため加入していないと回答している。
- 学部生、交換留学生、学部研究生では新型コロナウイルスの影響で参加できていないという回答が多く見られる。学年が上がるにつれて、研究やアルバイトなどで忙しいため参加していないという回答が増える。

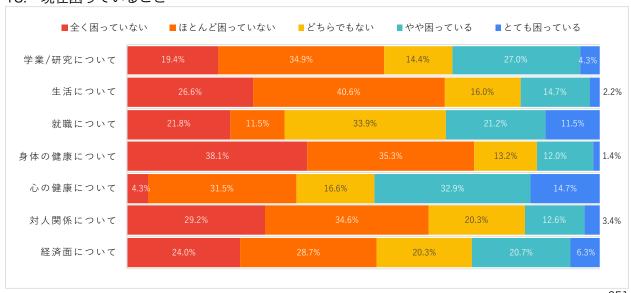
12. 現在の住居



n=649、「その他」の身分を除く

- 全体では、県内の公営住宅や民間アパートが47.9%、東北大学学生寄宿舎が40.9%を占める。
- 交換留学生では、日本国外に居住していると回答した人が83.3%にのぼっている。

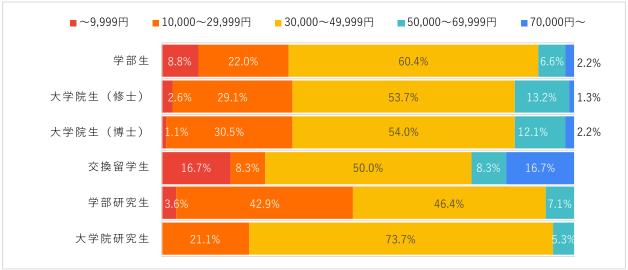
13. 現在困っていること



- n=651
- ●「まったく困っていない」、「ほとんど困っていない」と回答した人は、「身体の健康について」(73.4%)、「生活について」(67.2%)、「対人関係について」(63.8%)の順に多かった。
- ●「やや困っている」または「とても困っている」と回答した人の割合が最も多かったのが、「心の健康について」(47.6%)、「就職について」(32.7%)、「学業について」(31.3%)の順であった。新型コロナウィルスが学生生活の様々な側面に与える影響が懸念される。

2. 経済状況

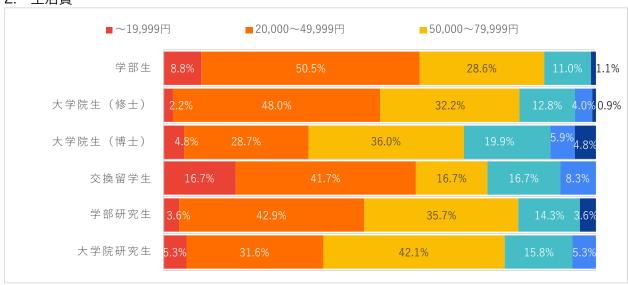
1. 住居費



n=649, 「その他」の身分を除く

- 月5万円以下と回答した人が全体の8割を超える。
- すべての身分において、30,000~49,999 円と回答した人の割合が最も多い。

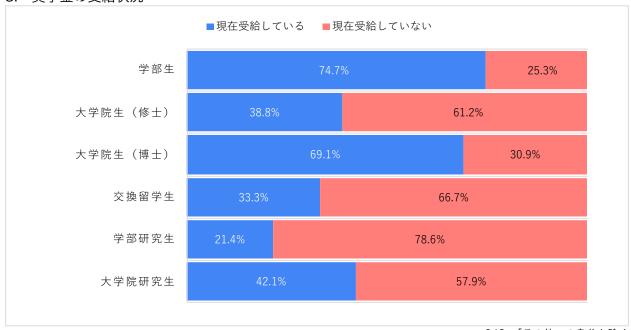
2. 生活費



n=649, 「その他」の身分を除く

● 全体の4分の3以上が毎月8万円以下で生活していると回答している。

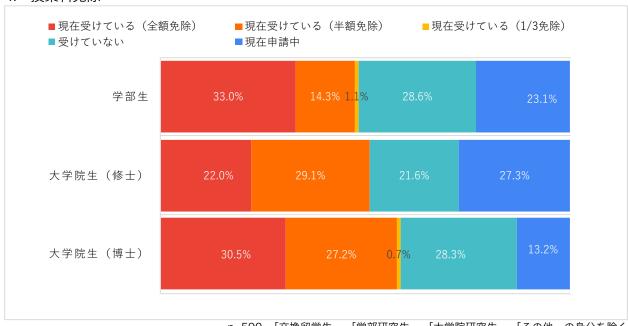
3. 奨学金の受給状況



n=649, 「その他」の身分を除く

- 全体の 55.8%の人が現在奨学金を受給している。
- 学部生、大学院生(博士)の受給率が 70%前後と高い一方、学部研究生の受給率は 21.4%にとどまっている。

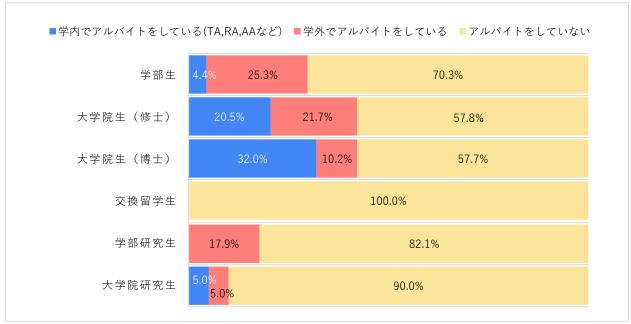
4. 授業料免除



n=590, 「交換留学生」, 「学部研究生」, 「大学院研究生」, 「その他」の身分を除く

- 学部生、大学院生(修士)、大学院生(博士)の合計では、54%の学生が授業料の免除を受けており、26%の学 生が免除を受けていないと回答した。
- 授業料の免除を受けている学生の割合が最も高いのが大学院生(博士)で 58.5%、一方割合が最も低いのが学部 生(48.4.%)である。

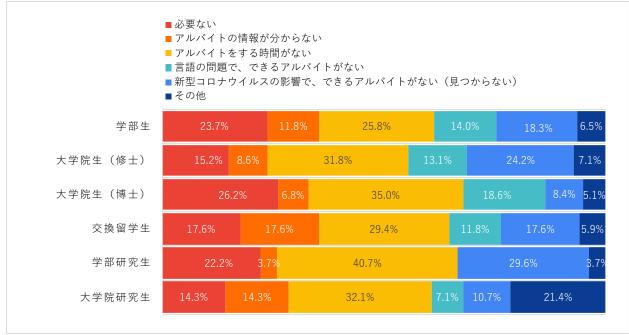
5. 現在のアルバイト状況(TA、RA、AA など学内のものも含む)



n=649, 「その他」の身分を除く, 複数回答可

- ●どの身分においても半数以上の人がアルバイトをしていないと回答している。
- ●学部・大学院生(修士)・大学院生(博士)と学年が上がるにつれて TA、RA、AA など学内でのアルバイトの割合が増えている。

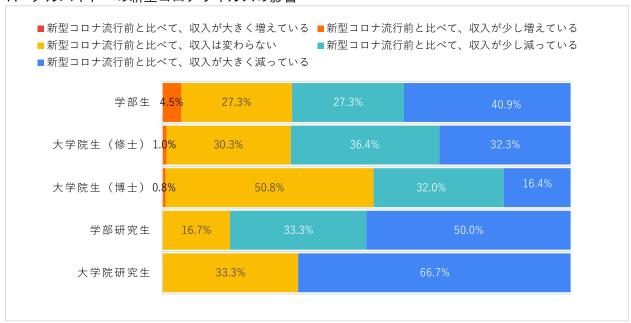
6. アルバイトをしていない理由



n=395, 「その他」の身分を除く, アルバイトをしていないと答えた人のみ, 複数回答可

● アルバイトをしていない理由について、全体として最も多い回答が「アルバイトをする時間がない」であり、次いで「必要ない」、「新型コロナウイルスの影響でアルバイトがない」と続く。

7. アルバイトへの新型コロナウイルスの影響

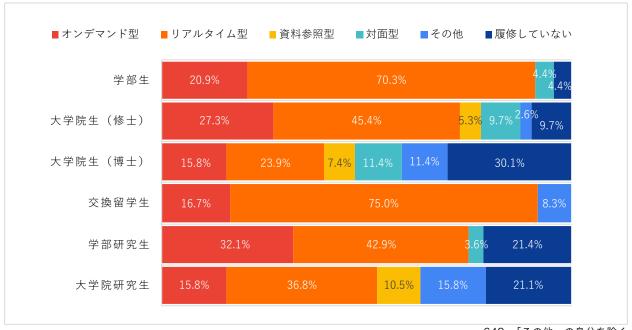


n=252, 「交換留学生」/「その他」の身分を除く, アルバイトをしていると答えた人のみ

- コロナウイルスによる影響で、収入が「少し減った」または「大きく減った」と回答した人が身分にかかわらず多くおり、特に学部研究生は両方をあわせると83.3%と、その傾向が顕著である。
- 大学院生(博士)については「収入は変わらない」と回答した人が他の身分より多い。TA や RA などの学内アルバイトの有無が収入の安定に影響していると思われる。

3. 令和2年度の学習・研究環境

1. 授業形態

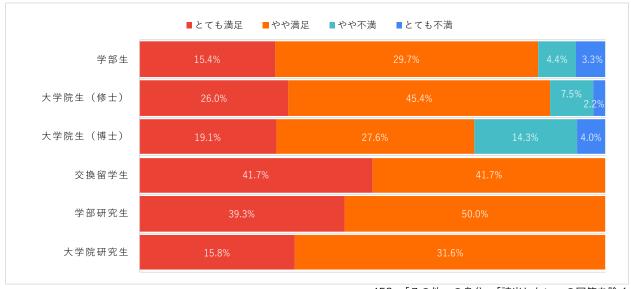


n=649, 「その他」の身分を除く

- 授業形態は、リアルタイム型、オンデマンド型、対面型の順に多い。
- 学部生、交換留学生ではリアルタイム型が 7 割を超えており、資料参照型はほとんど見られない。
- 大学院生(博士)、学部研究生、大学院研究生については、履修していないと回答した割合も一定数見られた。

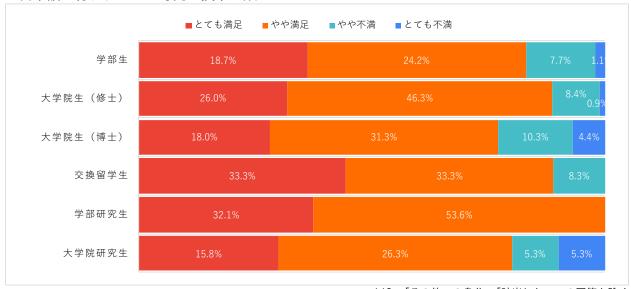
2. 授業の満足度

<日本語で行われている専門の授業の内容>



n=453, 「その他」の身分, 「該当しない」の回答を除く

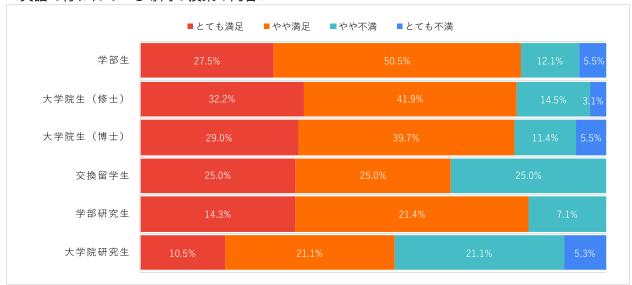
<日本語で行われている専門の授業の数>



n=449,「その他」の身分,「該当しない」の回答を除く

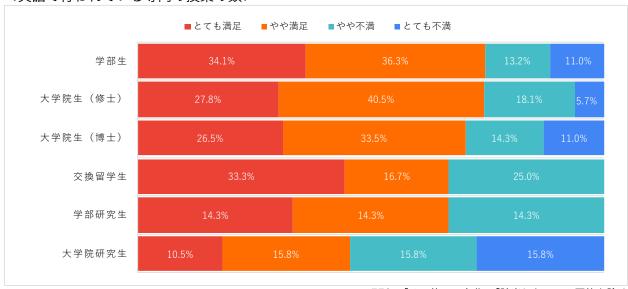
- 全体を通して比較的満足度は高いと言えるが、日本語で行われる専門の授業の内容・数ともに不満を感じている 人も一定数いる。
- 授業の内容・数ともに「やや不満」「とても不満」と回答した人の割合は、大学院生(博士)、大学院生(修士)、学部生の順に多い。また、日本語で行われている専門の授業の数については、大学院研究生で「とても不満」という回答の割合が他の身分より多くなっている。

<英語で行われている専門の授業の内容>



n=560, 「その他」の身分, 「該当しない」の回答を除く

<英語で行われている専門の授業の数>

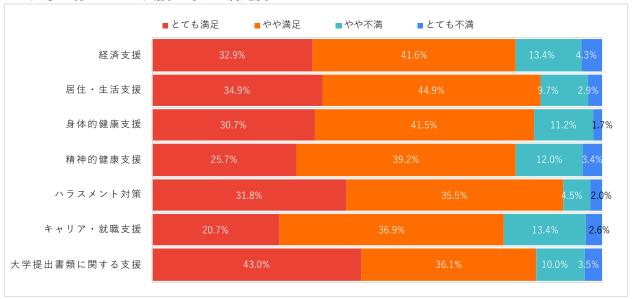


n=559,「その他」の身分,「該当しない」の回答を除く

● 学年による満足度の割合にはあまり差がないが、授業の数について見ると、学部生、大学院生(博士)、大学院研究生のうち 10%強が「とても不満」と回答している。

4. 大学生活・支援

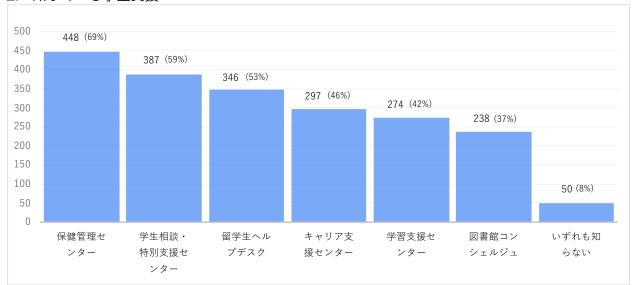
1. 大学が行っている支援に対する満足度



「該当しない」の回答を除く

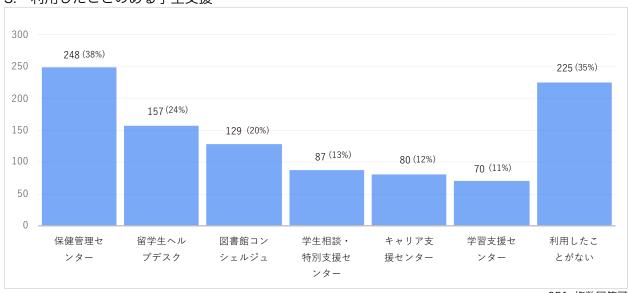
- 約8割の学生が、「居住・生活支援」、「大学提出書類に関する支援」に対して「とても満足」もしくは「やや満足」と回答している。
- ●「やや不満」、「とても不満」が多いのは、「経済支援」(17.7%」「キャリア・就職支援」(16%)、「精神的健康支援」(15.4%)の順。

2. 知っている学牛支援



n=651, 複数回答可

3. 利用したことのある学生支援

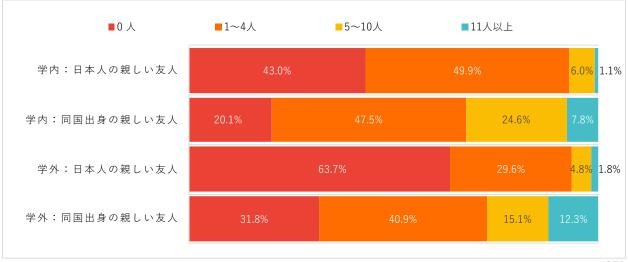


n=651, 複数回答可

- 知っている学生支援、利用したことのある学生支援ともに保健管理センターが最も割合が高かった。
- 学生相談・特別支援センター、留学生ヘルプデスクは回答者の約6割の学生に知られているが、キャリア支援センター、学習支援センター、図書館コンシェルジュは半数未満にとどまった。
- 留学生ヘルプデスク、図書館コンシェルジュは回答者の 20%程度が利用したことがあると回答しているが、学生相談・特別支援センター、キャリア支援センター、学習支援センターについては、利用したことがあると回答した割合は全体の 15%を下回った。
- いずれの学生支援も利用したことがないと回答した人は全体の3割程度であった。

5. 心身健康・人間関係

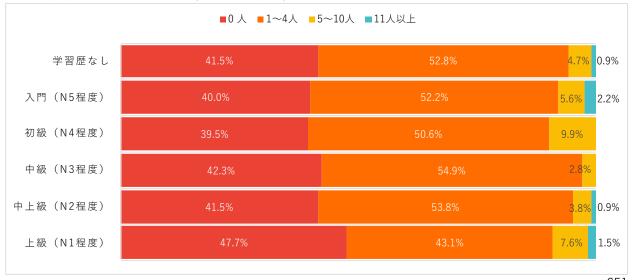
1. 友人の数



n=651

- 学内に日本人の親しい友人が「全くいない」(0人)人は全体の43%、4人以下と回答した人は92.9%にのぼる。学外ではさらに少なく、「全くいない」(0人)は63.7%、4人以下は93.3%。
- 同国出身の親しい友人が「全くいない」(0 人)と回答した人も全体の 20% おり、留学生の孤立化が懸念される。

2. 日本語レベル別友人の数(学内:日本人)



n=651

● 学内の親しい友人の数を日本語習熟度別に見ると、それぞれに大きな差はないものの、上級レベルでも「全くいない」(0人)と回答した人が半数近くいることがわかる。日本語が流暢であっても、日本人の友人が作れるというわけではないことが分かる。

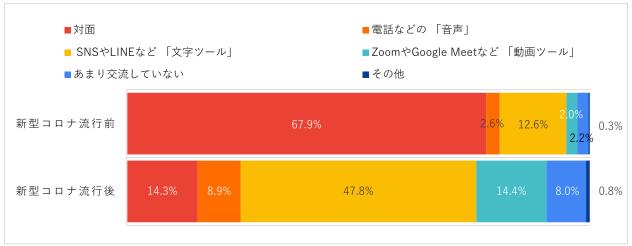
3. 日本人学生との交流希望



● 全体の 95%が「日本人学生と交流したい」と回答している。

n=651

4. 学内の友人との主な交流方法

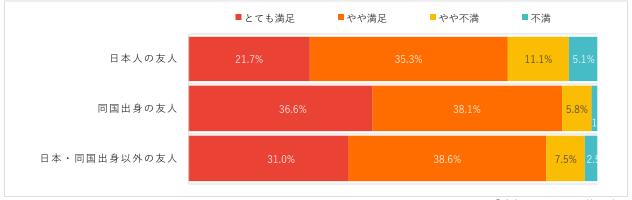


「該当しない」の回答を除く

- 新型コロナウイルスの感染拡大後は対面による交流は大幅に減り、SNS 等の文字ツールによる交流や、Zoom 等の動画ツールによる交流が増加している。
- 新型コロナウイルス流行後は「あまり交流していない」人が急増している。

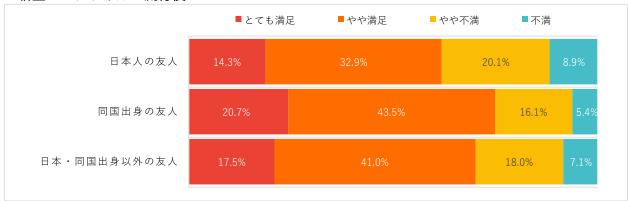
5. 学内の友人との交流機会への満足度

<新型コロナウイルス流行前>



「該当しない」の回答を除く

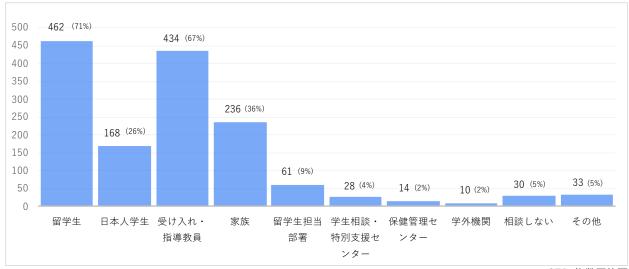
<新型コロナウイルス流行後>



「該当しない」の回答を除く

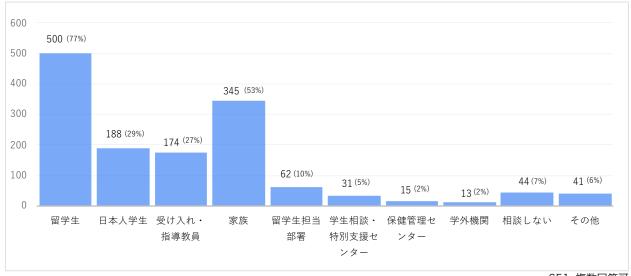
● 新型コロナウイルス流行前後の学内の友人との交流機会を比較すると、日本人の友人・同国出身の友人・日本・同国出身以外の友人すべての項目において新型コロナウイルス流行後に友人との交流機会に不満を感じている人の割合が増えている。

6. 学業の悩み事や心配事の相談相手



n=651, 複数回答可

7. 生活の悩み事や心配事の相談相手

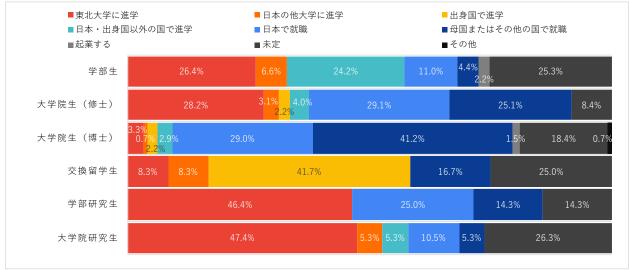


n=651, 複数回答可

- 学業・生活ともに、他の留学生に相談すると回答した人が最も多い。
- その他、学業に関する悩み事や心配事については、受け入れ・指導教員に、生活に関する悩み事や心配事については家族に相談すると回答した人が多い。

6. 卒業・修了後の進路

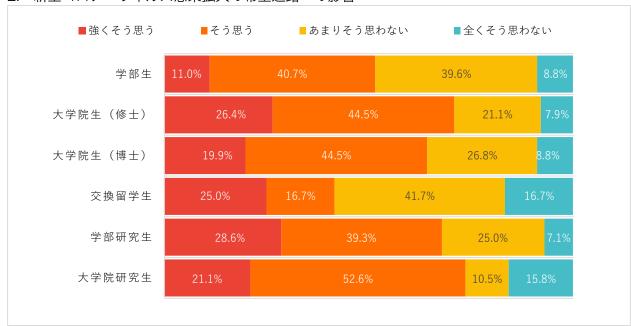
1. 卒業・修了後の進路



n=649, 「その他」の身分を除く

- 全体では「母国またはその他の国で就職」が 27.6%と最も多く、以降「日本で就職」(25.2%)、「東北大学に進学」(18.6%)と続く。
- 学部生では、「東北大学に進学」(26.4%)と同等数の人が「日本・出身国以外の国で進学」(24.2%)を希望している。
- 大学院生(修士・博士)の1/3が修了後、日本での就職を希望している。

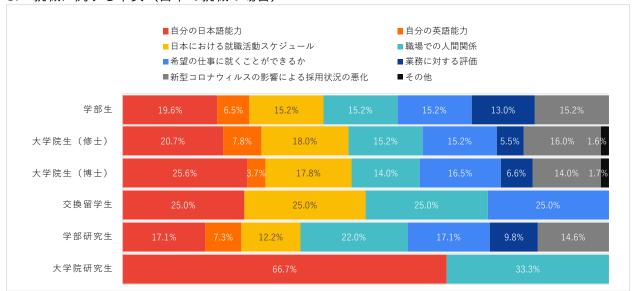
2. 新型コロナ・ウィルス感染拡大の希望進路への影響



n=649, 「その他」の身分を除く

● 交換留学生を除く全ての身分において、半数以上が 新型コロナウィルス感染拡大が希望の進路に何らかの影響を与えたと考えている。

3. 就職に関する不安(日本で就職の場合)



n=182, 「その他」の身分を除く

- 日本での就職を希望する場合、「自分の日本語能力」に不安を覚える人の割合が最も多く、「日本における就職活動スケジュール」がそれに続いた。
- コロナウイルスの影響による採用状況の悪化に不安を感じている人も一定数存在している。

4. 大学で受けたい就職支援サービス

就職支援サービス	回答数		
日本で留学生を採用する企業情報の提供	395		
日本での就職活動の基礎知識の説明・紹介	355		
日本でのインターンシップ情報の提供	295		
英語での就職相談	262		
日本で就活する留学生同士の交流会	250		
日本以外での就職活動の基礎知識の説明・紹介	203		
日本以外でのインターンシップ情報の提供	187		
オンラインの英語でのフィードバック会	157		
その他	61		
合計	2,165		

n=651, 複数回答可

● 要望が多かったのは、上から順に「日本で留学生を採用する企業情報の提供」、「日本での就職活動の基礎知識の説明・紹介」「日本でのインターンシップ情報の提供」であった。

自由記述より

【英語・日本語で行われている専門・専門以外の授業について】

- ・英語の授業を増やしてほしい。
- ・言葉の壁は東北大学の問題であると感じる。日本人と友人になることは難しい。
- ・日本語で行われる授業についても、英語によるスライドやハンドアウトを提供してほしい。
- ・日本語で行われる授業には興味深い内容のものがあるが、多くの留学生にとっては言葉の壁で参加し にくい。

【授業以外(教員の指導・チューター・図書館等)について】

- ・研究室において、日本人学生との交流が少ない。
- ・研究室における外国人と日本人の間の壁を感じる。
- ・図書館に英語の書籍をもっと設置してほしい。
- ・教務からの電子メールは、特に重要なものは、タイトルだけでも英語にしてほしい。
- ・日英二言語表記は東北大学からの全ての情報に適用してほしい。

【支援への満足度について】

- ・キャリアセミナーが日英二言語で行われると助かる。
- ・英語のできる学生を雇用したい企業による就職説明会があれば良かった。
- ・公式な情報は日英二言語にしてほしい。
- ・英語による医療サービスがほしい。
- ・すぐに宿舎を見つけられる支援が必要。
- ・奨学金や授業料免除に申請する際の支援があると助かる。

【新型コロナウイルス流行後の学内の友人との交流】

- ・日本人学生との交流会を楽しみにしていたが、COVID-19で中止になってしまった。
- ・全く日本人の友人ができていない状態。
- ・研究室以外で日本人に会うことが難しい。コロナ流行後は新しくできた日本人の知り合いは一人もいない。
- ・コロナ流行後、友人と会う機会が大分減った。

【新型コロナウイルスが進路に与えた影響について】

- ・コロナ流行により研究に対する情熱が低くなっており、これ以上のキャリアを積む気を 失っている。
- ・移動制限や、様々な計画のキャンセルが生じた。
- ・COVID-19 の影響による経済の落ち込みにより、就職の機会が減ると思う。
- ・就職活動を始めるはまだ先なので、それほど悩んでいない。
- ・博士修了後、研究職に就きたいと思うので、コロナの影響はあまりないと思う。
- ・コロナは将来設計について考え直すきっかけとなった。

【特に新型コロナウイルスの影響で、疑問に思っていること、困っていることなど】

- ・コロナで住んでいる学生寮は一年延長できたがその後が心配。
- ・コロナで実家の経済状態が悪くなっており、金銭的な問題が発生した。より多くの経済的支援があればありがたい。
- ・アルバイトができなくなって困っている。
- ・期限内に研究を終えられるか心配している。
- ・コロナの影響で研究室のゼミ授業はオンラインとなり、人間関係が希薄になった。
- ・母国に帰る機会もないまま日本におり、留学生同士の交流もままならない状況にあり、精神面におい て問題を抱えている。
- ・日本に入国できていない。
- ・母国に帰省できない。